

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公表番号】特表 2007-509949 (P2007-509949A)

【公表日】平成 19 年 4 月 19 日 (2007.4.19)

【年通号数】公開・登録公報 2007-015

【出願番号】特願 2006-538191 (P2006-538191)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/65 (2006.01)

A 6 1 K 31/403 (2006.01)

A 6 1 K 31/44 (2006.01)

A 6 1 K 31/192 (2006.01)

A 6 1 K 31/7048 (2006.01)

A 6 1 K 31/7034 (2006.01)

A 6 1 K 31/7052 (2006.01)

A 6 1 K 31/137 (2006.01)

A 6 1 K 47/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/06

A 6 1 P 29/00

A 6 1 K 31/65

A 6 1 K 31/403

A 6 1 K 31/44

A 6 1 K 31/192

A 6 1 K 31/7048

A 6 1 K 31/7034

A 6 1 K 31/7052

A 6 1 K 31/137

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/12

A 6 1 P 31/04

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 20 日 (2007.9.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プロトン供与性の薬理学的に活性な成分及びプロトン受容性の薬理学的に活性な成分の塩を含む組成物。

【請求項 2】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分が抗炎症活性を有する、請求項 1 に記載の

組成物。

【請求項 3】

前記プロトン供与性の薬理的に活性な成分が非ステロイド系抗炎症剤（NSAID）である、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記 NSAID が、以下の：フルニキシン、カルプロフェン、イブプロフェン、ジクロフェナック、及びナプロキセンから成る群から選ばれる、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記 NSAID が、フルニキシンである、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分が抗感染活性又は抗菌活性を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分が抗生物質である、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分が、以下の：アジスロマイシン、ロキシスロマイシン、チルミコシン、オキシテトラサイクリン及びドキシサイクリンから成る群から選ばれる、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分がチルミコシンである、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記プロトン供与性の薬理的に活性な成分が、以下の：フルニキシン、カルプロフェン、及びナプロキセンから成る群から選ばれ；かつ、

前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分が、以下の：アジスロマイシン、ロキシスロマイシン、チルミコシン、オキシテトラサイクリン及びドキシサイクリンから成る群から選ばれる、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記プロトン供与性の薬理的に活性な成分がフルニキシンであり、前記プロトン受容性の薬理的に活性な成分がチルミコシンである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 12】

さらに、医薬として許容可能な担体を含む請求項 1 に記載の組成物であって、該組成物が水中に注入された場合に沈殿を形成する注射可能な組成物である、前記組成物。

【請求項 13】

前記注射可能な組成物が溶液である、請求項 12 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記薬理的に活性な成分の少なくとも 1 つが COX-2 阻害剤である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 15】

前記 COX-2 阻害剤がセレコキシブである、請求項 14 に記載の組成物。

【請求項 16】

前記プロトン供与性のまたはプロトン受容性の薬理的に活性な成分が、以下の：マクロライド、テトラサイクリン、アミノグリコシド、 β -ラクタム、及び抗真菌剤から成る群から選ばれる、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 17】

さらに、プロトン受容性の薬理的に活性な成分及びプロトン供与性の親油性分子から形成される塩を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 18】

前記親油性分子が脂肪酸である、請求項 17 に記載の組成物。

【請求項 19】

前記脂肪酸が、以下の：ラウリン酸、リノール酸、デカン酸、ミリスチン酸、及びオレイン酸から成る群から選ばれる、請求項 18 に記載の組成物。

【請求項 20】

さらに、薬理学的に活性な成分を遊離の形態で含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 21】

薬理学的に活性な成分を含む組成物であって、以下の：

(i) プロトン供与性の薬理学的に活性な成分及びプロトン受容性の薬理学的に活性な成分の塩、及び

(ii) 医薬として許容可能な担体、
を含み、動物に投与される、前記組成物。

【請求項 22】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分が、以下の：フルニキシム、カルプロフェン、及びナプロキセンから成る群から選ばれる；かつ

前記プロトン受容性の薬理学的に活性な成分が、以下の：アジスロマイシン、ロキシスロマイシン、チルミコシン、オキシテトラサイクリン及びドキシサイクリンから成る群から選ばれる、請求項 21 に記載の組成物。

【請求項 23】

注射によって投与される、請求項 22 に記載の組成物。

【請求項 24】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分及び前記プロトン受容性の薬理学的に活性な成分が、前記動物において、前記塩として投与された場合に遊離の形態で投与された場合よりもより遅い放出動態を有する、請求項 22 に記載の組成物。

【請求項 25】

前記動物が、以下の：ヒト、イヌ、ネコ、ウマ、ウシ、ヒツジ、及びブタからなる群から選ばれる、請求項 22 に記載の組成物。

【請求項 26】

プロトン供与性の薬理学的に活性な成分及びプロトン受容性の薬理学的に活性な成分を接触させることを含む、組成物の製造方法。

【請求項 27】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分及び前記プロトン受容性の薬理学的に活性な成分が溶媒中で接触させられる、請求項 26 に記載の方法。

【請求項 28】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分が抗炎症活性を有する、請求項 26 に記載の方法。

【請求項 29】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分が、非ステロイド系抗炎症剤 (NSAID) である、請求項 28 に記載の方法。

【請求項 30】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分が、以下の：フルニキシム、カルプロフェン、及びナプロキセンから成る群から選ばれる；かつ、

前記プロトン受容性の薬理学的に活性な成分が、以下の：アジスロマイシン、ロキシスロマイシン、チルミコシン、オキシテトラサイクリン及びドキシサイクリンから成る群から選ばれる、請求項 26 に記載の方法。

【請求項 31】

前記プロトン供与性の薬理学的に活性な成分がフルニキシムであり、そして前記プロトン受容性の薬理学的に活性な成分がチルミコシンである、請求項 30 に記載の方法。

【請求項 32】

10 ~ 30 重量パーセントのチルミコシン、チルミコシン 1 当量あたり 2 当量のフルニキシム、及びグリセロールフォーマル中 10 パーセントのプロピレングリコールを含む、

注射可能な組成物。

【請求項 33】

10 ~ 30 重量パーセントのチルミコシン、チルミコシン 1 当量あたり 1 当量のフルニキシン、チルミコシン 1 当量あたり 1 当量の脂肪酸、及びグリセロールフォーマル中 10 パーセントのプロピレングリコールを含む、注射可能な組成物。

【請求項 34】

前記脂肪酸が、デカン酸またはラウリン酸である、請求項 33 に記載の組成物。